

目次

| | | |
|----------------|-----------------------------|----------|
| ■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報 | 不安定な相場。直近は弱含み？ | p. 2-3 |
| ■ バター情報 | 下げ要因見当たらず高騰続く | p. 3-4 |
| ■ ホエイ情報 | 米国産は軟化傾向、欧州産は高値圏も安定 | p. 5 |
| ■ カゼイン情報 | カゼイン相場、踊り場に | p. 5-6 |
| ■ 乳糖情報 | タイト感薄れ横ばいに転じる動き | p. 6 |
| ■ チーズ情報 | CME の取引に一部変更 | p. 7 |
| | 米国産乳製品の輸出状況 | p. 7 |
| | オーストラリアの乳製品生産状況 | p. 7 |
| | アルゼンチンの生乳生産 | p. 7 |
| | 米国 CME 相場 | p. 8 |
| ■ 国内情報 | 生乳減産続く -追加輸入入札も脱粉逼迫感は解消せず- | p. 8-10 |
| ■ 今月のトピックス | 今年の EU の春はかなり短い？ | p. 10 |
| ■ メルボルン駐在員情報 | 新シーズンの乳価発表 注目の MGC 社早々に乳価改定 | p. 10-11 |
| ■ 米国駐在員情報 | カナダ 新乳価クラス 7 設定と脱脂粉乳輸出量の増加 | p. 11-12 |
| | 5月の主要 23 州生乳生産量 | p. 12 |
| | 5月の全米生乳生産量 | p. 12 |
| | 4月の米国産乳製品の輸出量 | p. 13 |
| | 4月の米国産バター、脱脂粉乳、チーズの生産量 | p. 13 |
| 5月のチーズとバターの在庫量 | p. 13 | |
| ■ 主要生産国の現行乳価 | | p. 14 |
| ■ 出典 | | p. 15 |

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報

不安定な相場。直近は弱含み？

先月初めに堅調に推移した粉乳相場であったが、下旬に入ると軟調に転じた。脱脂粉乳についてはオセアニア産及び米国産が市場を牽引しており、続いて欧州産が続くがその差は縮まってきている。全粉乳は欧州産にあまり供給力がなく、オセアニア産に期待。今月行われた GDT の平均価格は全粉乳、脱脂粉乳ともに前月比下落した。短期間で大きくはないものの相場の変動が生じている。

欧州

欧州全体の生乳生産量は4月に漸く昨年と同じ水準まで回復してきたものの、1~4月の累計は前年同期比1.4%減少となった。特に主要生産国であるドイツとフランスではそれぞれ、-4.1%、-3.3%減少した。もともと生乳生産のピークである4~5月が例年よりも寒く冬が長引いたため生産量に影響が及んだが、現在は打って変わって猛暑が続いており、酪農家は引き続き天候不順に悩まされている。

欧州産脱脂粉乳の相場は6月上旬に若干の上昇を見せたものの、下旬に差し掛かり再び下落傾向となった。低調な生乳生産の影響で1~4月の製造量は前年同期比-11.4%となったものの、未だ政府介入在庫が残っていることから在庫は厚い。同介入在庫の放出入札は定期的に行われ殆どが不落となっていたが、製造から2年近く経過する在庫も出てくることから、EU政府は落札価格をEUR 1,850/MTに引き下げることに合意した模様である。(一番初めに落札された40トンの落札価格はEUR 2,151/MT。)本件を受け今後在庫玉が市場に流通することで供給量が増え、価格も更に弱含むのではと予想する関係者も出てきている。

欧州産全粉乳の相場は堅調に推移している。オセアニア産よりも競争力はなく、ほとんどがEU域内消費となっている。製造者はバターやチーズを製造した方が利益率も良いことから、全粉乳の製造には積極的でない様子である。

オセアニア

豪州の4月の生乳生産量は前年同月比-6.3%となった。2016年シーズン(2016年7月~2017年4月)の累計を地域別に見ると、ヴィクトリア州で-9.6%、ニューサウスウェールズ州では-5.4%まで落ち込んだ(前年同期比)。

先日、同国の各サプライヤーから7月に始まる新シーズンのオープニング乳価が発表された。各社とも2016年シーズンより高めの設定となり、引き続き生乳の奪い合いが予想される。

ニュージーランドは予想よりも乳量を確保してシーズンを終えた。新シーズンを開始するにあたり牧草の育ちも上々である。最近の乳脂肪相場の上昇を受け、酪農家は乳価の値上げを期待している状況である。

オセアニア産脱脂粉乳相場は先月からほぼ横ばい、または、若干上昇した。6月20日に行われたGDTの平均価格はUSD 2,218/MT(本船船側渡し価格)となっており、5月16日のUSD 1,998/MTと比較すると11.0%上昇している。

欧州産よりも価格競争力のあるオファーも出ていることから、スポット的に引き合いが来ている模様である。

オセアニア産全粉乳は軟調に推移。6月20日に行われたGDTの平均価格はUSD 3,022/MT(本船船側渡し価格)となっており、5月16日のUSD 3,312/MTと比較すると8%下落している。特にニュージーランドではシーズン終わりに予想よりも生乳を確保し、全粉乳を製造できたことが一つの要因と考えられる。

米国

米国の5月の生乳生産量は前年同月比+1.8%となり、引き続き好調に推移している。脱脂粉乳は供給量に問題なく、価格も先月に比べて軟調に推移している。例年よりもメキシコ向けの引き合いが落ち着いている様子で、価格もオセアニア産に劣らない競争力を見せている。

今後の見通し

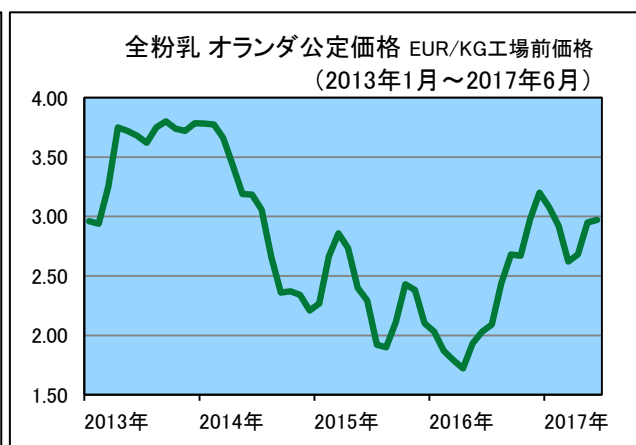
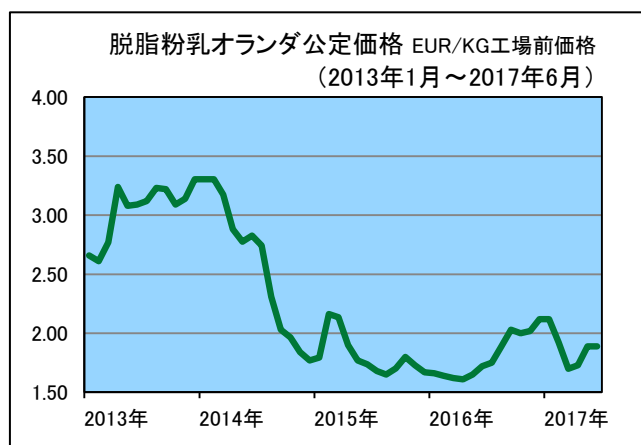
脱脂粉乳においてはEUの政府介入在庫の放出、オセアニアの新シーズン開始による供給量増加、米国での順調な生乳生産を背景に軟調に推移することが期待される。一方で低調な相場が続いていることから、最近ではバタ

一と脱脂粉乳のプロダクトミックスから利益率の高いチーズの製造へ切り替える動きもでてきており、このトレンドが広まれば供給がタイトになる可能性も考えられる。加えて、最近になって中国が輸入量を増やしてきており5月単月で18,522MT(前年同月比39%増)の脱脂粉乳を輸入している。今後同国の動きにも注視する必要がある。

全粉乳についてはオセアニアで予想よりも製造できたこと、引き合いも落ち着いていることから来月以降は同地域からの供給に期待したいところである。欧州産はタイトであり供給は期待できないと考える。欧州及びオセアニアの生乳生産の動向を注視し供給量を把握しながら適切なタイミングで必要量を手当てしていきたい。

現在の粉乳取引価格

| | | |
|--------------------------------|---|--------------------------------------|
| EU産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 2,150- 2,450/MT CFR ASIAN PORTS |
| EU産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 3,700 - 4,000/MT CFR ASIAN PORTS |
| オセアニア産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 2,100 - 2,400/MT CFR ASIAN PORTS |
| オセアニア産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 3,300 - 3,600/MT CFR ASIAN PORTS |
| 米国産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 2,100 - 2,400/MT CFR ASIAN PORTS |



<清水>

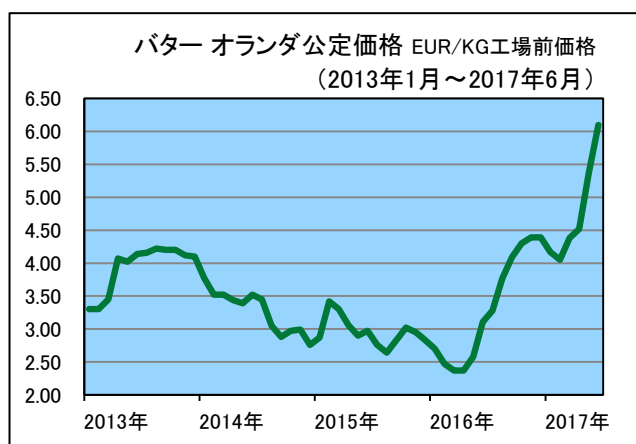
■ バター情報

■ 下げ要因見当たらず高騰続く

欧州

6月の欧州バター相場は5月に引き続き大幅に上昇した。ドイツ乳製品市場価格情報センター発表の契約価格モニタリング結果ではEUR6,000/MTを超え、史上最高値を更新し、さらにオランダ公定価格もEUR6,000/MTを超えた。

EU主要28か国における2017年4月時点(累計4か月)のバター製造量は前年比で5.3%減、2017年4月末時点のPSA(民間補助在庫)バター在庫量は1,369トンと前月比67.8%減となった。内訳はフランス1,142トン、ポルトガル161トン、アイルランド66トンであった。欧州域内の乳脂肪需要は依然として非常に強く、一部サブ



ライヤーより売り切れという話も聞こえてきている。また供給余力のあるサプライヤーからオファーが出たとしても毎週 EUR100/MT 以上値上がりするという状況が続いている。現在欧州では熱波により連日 30°C を超える気候が続いている。猛暑の影響で今後生乳生産量が落ち込む恐れがあり、一層のバター不足が予想され、それに伴いさらに価格が上昇することが考えられる。一方で相場が下がる要因は見当たらない。

オセアニア

オセアニアのバター相場も引き続き高値で安定、需給逼迫が続いている。豪州国内需要は引き続き好調である一方、供給余力は極めて乏しく、バターを含む乳脂肪製品はオファー入手が大変困難な状況が続いている。2017年4月時点(累計10か月)の豪州バター生産量は前年比17.0%減と大幅に落ち込んでいる。各社とも来シーズン(2017年7~2018年6月)乳価を軒並み今シーズン最終乳価より5~8%程度上げると発表したが、このオープニング乳価により生乳生産量が回復し、再びバター供給余力が出てくることを期待したい。

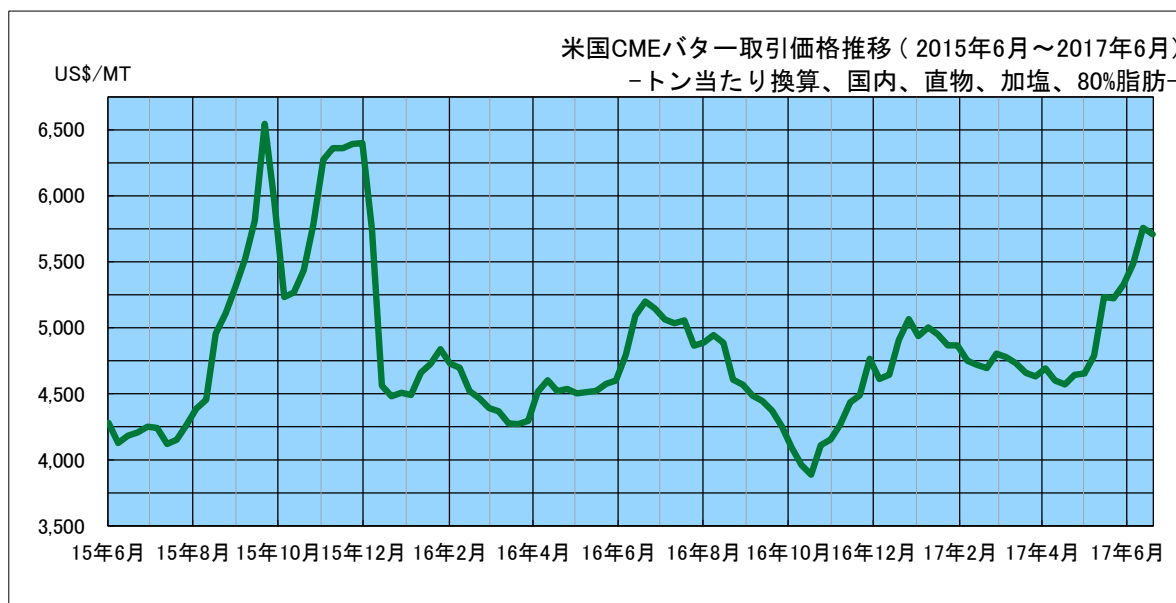
5月のGDTオークションは、1回目のAMF平均価格がUSD6,559/MT FAS(船側渡し)と前回(2017年5月16日)比0.9%減、バター平均価格は、USD5,631/MT FASで前回は2.8%増、2回目の平均価格はAMFがUSD6,885/MT FASで前回は4.8%増、バターはUSD5,768/MT FASで2.4%増であった。

米国

米国バター相場は6月も上昇した。1~4月累計でのバター生産量は30万8000トンで前年同期比-4.2%、3月単月でも前年同月比-3.7%減の7万4400トンとなった。4月から5月にかけてバターの在庫は約9500トン積み上がったが、前年同月比では3.5%減の約14万2000トンとなった。

欧州でバター相場が急上昇しており、米国産バター価格は欧州産に比べ割安となっているが、一部サプライヤーからは2017年積みは既に売り切れという話も聞こえてきており、ここでもオファー入手そのものが困難な状況となっている。バター在庫量は3月までは前年同期比プラスで推移していたものの、4月以降マイナスに転じている。それでも過去5年平均の在庫量と比較すると約1万7000トン多く、今後の在庫積み上がり方次第では、米国産バターも輸出市場に再登場する可能性も考えられる。

<吉田>



2017年6月のバター取引価格

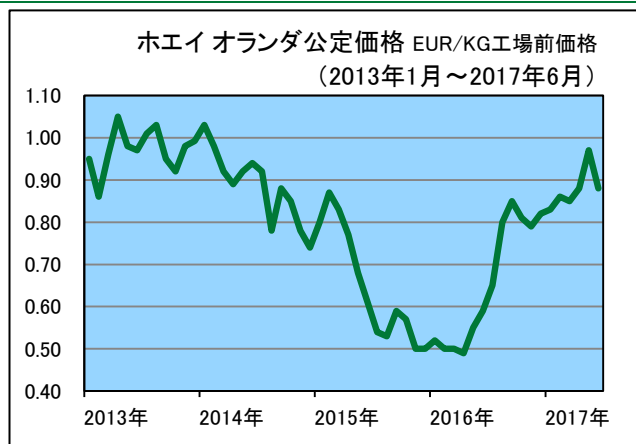
(換算レート EUR/USD1.13)

| | |
|--------------------|--|
| 欧州産バター価格 | : USD7,200~USD7,600/MT CFR ASIAN PORTS |
| NZ産バター価格 | : USD5,800~USD6,500/MT CFR ASIAN PORTS |
| 豪州産バター価格 | : USD5,800~USD6,500/MT CFR ASIAN PORTS |
| 米国産バター(無塩 82%脂肪)価格 | : USD5,800~USD6,300/MT CFR ASIAN PORTS |

■ ホエイ情報

■ 米国産は軟化傾向、欧州産は高値圏も安定

米国産ホエイパウダーの相場は若干の弱含みにて推移している。米国の4月のホエイパウダーの生産量は前年比2.8%増の3万7500トン、4月末時点の在庫量も前年比0.2%増の3万7000トンとなった。4月のホエイパウダーの輸出量は前年比34%増の1万7000トン、2017年1月から4月の累計輸出量も前年同時期比28%増の14万2000トンとなっている。4月までの輸出量は好調に推移していたが、直近では米国産ホエイパウダーの需要者であるアジアからの引き合いが弱まっており、相場軟化に影響している模様である。



欧州産ホエイパウダーは高値圏の中で安定している。生産量及び在庫量ともに適正水準となっており、飼料用ホエイパウダーの需要者も十分な在庫量がある模様である。即ち、需給はバランスのとれた状態で、急激な相場変動は無さそうである。欧州産ホエイパウダーの2017年1月から4月の輸出量は前年同時期比3.9%増加しており、国別の輸出先の割合は中国が29.5%で1位、次いでインドネシアが16.6%、マレーシアが8.3%となっている。

米国産 WPC-34 の相場は若干の弱含みにて推移している。米国内の脱脂粉乳相場が軟化傾向にあるため、WPC-34 の需要も一時的に落ち込んでいる模様である。米国の4月のWPC-34 の生産量は前年比15.9%増の7500トン、2017年1月から4月の累計では前年同時期比0.7%減の2万8000トンとなっている。2017年第1四半期は生産量が低調だったため、1月から4月までの累計では前年同時期比減となっているが、4月以降は生産量も安定しており、直近では供給面の問題はないものと考えられる。

<今野>

■ カゼイン情報

■ カゼイン相場 踊り場に

カゼイン相場は方向性の見えにくい展開が続いている。欧州においては生乳生産量が減少しているものの、バター需要が強いため、一定量の脱脂乳は出てきている状況である。脱脂粉乳相場は上昇には転じているもののいまだ低迷していることから、現状のカゼイン生産は安定している。一方、冬を迎えたオセアニアでは生乳生産の減少に伴いカゼイン生産も減少している。

需要面においては、ほとんどのユーザーが既に第3四半期の買付けを終了しており、一部で既に年内必要分まで手当てしていることから、引き合いは活発でない。

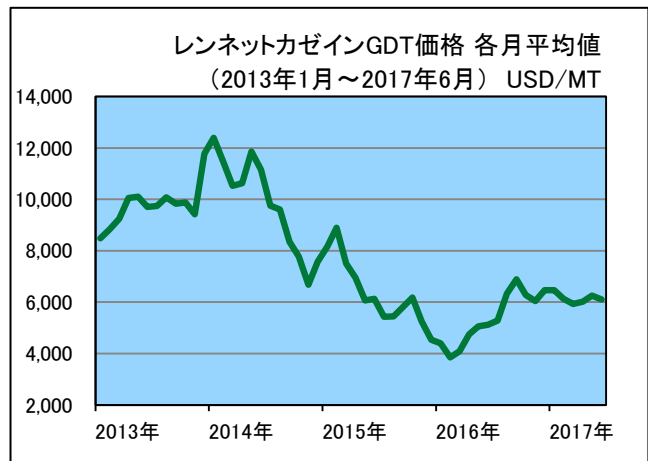
レンネットカゼイン GDT 過去3カ月の落札価格

| 入札日 | カゼイン(単位:MT) |
|------------|-------------|
| 2017年4月4日 | USD 6,260 |
| 2017年4月18日 | USD 6,020 |
| 2017年5月2日 | USD 6,775 |
| 2017年5月16日 | USD 6,259 |
| 2017年6月6日 | USD 6,849 |
| 2017年6月20日 | USD 6,104 |

生乳生産量の減少や脱脂粉乳価格の上昇といったマイナス情報により GDT 落札価格が大きく上昇する局面もあるが、引き合いそのものが少ないことから、高値は続かない。

今後については、季節的な要因で秋口からオセアニアでの生乳生産及びカゼイン生産が回復することから、大きく価格上昇することはないように思われる。しかし、プロダクトミックスの観点からバターよりもチーズ生産が増えた場合、原料供給がタイトになる可能性もあり、この点は注視していく必要がある。

<藤井>



■ 乳糖情報

■ タイト感薄れ横ばいに転じる動き

欧州

欧州産乳糖相場は、横ばいで推移している。生乳生産量自体は不安定な天候のため前年比減少しているものの、チーズ生産自体は大幅には減少しておらず、ホエイの供給はある程度順調である。そのため、乳糖も順調に生産されている模様である。需要面では中東需要がラマダンにより減少しており、脱脂粉乳蛋白調整用途での輸出も落ち着きを見せている。そのため、タイト感は徐々に薄れてはいるものの、各サプライヤーの状況には差が出始めており、既に第3四半期積みは売り切れとなっているサプライヤーもいれば、継続して第3四半期積みの交渉を続けている先もある。今後については、天候不順により生乳生産量に不安があるものの需要も落ち着きを見せていることから大きな相場の変動は考えにくい。

米国

米国産乳糖相場は横ばい、やや弱含みで推移している。米国では飼料の安値のお蔭で乳量も安定して伸びているうえに、旺盛な国内需要に支えられてチーズ生産は前年比増加している。結果、ホエイ、WPC の生産も順調である。徐々に未脱塩ホエイの需給のバランスが取れてきたことから、ホエイの生産は WPC34 や WPC80 にシフトしており、乳糖の生産量も前年比 5.4%増加している。乳糖生産量の増加に伴い、在庫状況も改善され、一部在庫を多く持つサプライヤーは価格を抑えて在庫の調整を始めている模様である。需要面では、第3四半期及び第4四半期のオセアニア向け脱脂粉乳蛋白調整用途の引き合いが始まってはいるもののそこまで大きな引き合いはまだ見られず、また東南アジア向けの需要が落ち着いていることから、需要家も契約を急いで進めてはならず、マーケットの動向を探る動きを見せている。

そのような中で日本向けの第3四半期積み交渉は前四半期と比較すると若干の下げにて決着した。しかし、今後については、乳糖生産自体は増加が見込めるものの、冬場の製菓向けやオセアニアのタンパク調整用途での需要も伸びると予想されることから、大幅な下げは考えにくく、乳糖市場は横ばい或いは若干の弱含みで進むものと思われる。

<作田>

米国からの乳糖輸出量(2017年1月～4月)

| | |
|-------------|------------|
| 1. 中国 | 21,619 トン |
| 2. 日本 | 16,264 トン |
| 3. メキシコ | 14,225 トン |
| 4. ニュージーランド | 11,767 トン |
| 5. インドネシア | 6,343 トン |
| 6. シンガポール | 6,056 トン |
| 7. インド | 5,791 トン |
| 輸出量総計 | 115,936 トン |

米国の乳糖生産量と在庫量(2017年4月)

| | | |
|-------|-----------|-----------|
| 乳糖生産量 | 43,771 トン | 前年比 5.4%増 |
| 月末在庫 | 51,709 トン | 前年比 9.8%減 |

■ チーズ情報

CMEの取引に一部変更

CME 現物の場内取引は6/23(金)に終了し、6/26(月)よりオンライン取引に移行となった。

NFDMとバターは今年の春までに既にオンラインへ移行済みであった。米国におけるチーズの企業間取引の8割以上が CME 現物チェダーの価格をベースとしているにも関わらず、昨年の CME 現物チェダーの取引数量は約23,000トン(全米の年間チーズ生産量の0.5%程度)である。参加者および関係者から取引の透明性とアクセス性を向上して欲しいとの要望があったようでオンラインへの移行となった。CME は取引参加者が増加し、活性化すると見込んでいる。なお、今年はバレルの現物取引が非常に活発で、6月時点で昨年一年間の取引件数に達している。バレル製造設備を持つ中西部のメーカーでは、好調な生乳生産に加えて、カナダでの新Class 7乳価導入(チーズ製造の原料乳となるUF処理乳の乳価導入)の影響で行き場を失った生乳をバレルチーズの製造に回さざるを得ないことが影響しているのではないかと考えられる。CME 現物取引は、サプライヤーとしては直ぐに現金化、利益が確定できるため、結果としてバレルの取引件数及び数量が増加していると思われる。

米国の乳製品輸出状況

ドル安にも支えられ、4月の全乳製品合計輸出量は前年同月比12%上昇し16万2,400トンとなった。チーズの輸出量は26.9%増の2万6,900トンであった。昨年はチェダーチーズの輸出が低迷しており僅か3,000トンであったため、75%の大幅増となった。チェダーの向け先は主にオーストラリア、日本、メキシコ、フィリピンである。他乳製品ではSMPは8.8%増の5万5,600トン、中国向け輸出が好調であった。バターも同様に22.9%増の1,500トンでほとんどがカナダ向けであった。米国は未だバターの輸入国に転じたままである。ホエイは33.6%増の1万7,000トン。乳糖は9.5%増の3万900トン、WPC80は17.1%減の1万600トン。全品目の年間輸出量としては13%増となった。

オーストラリアの乳製品生産状況

オーストラリアではチーズ生産量が依然増加している。デーリーオーストラリアによると、4月の生産量は前年同月比4.5%増の2万6,100トン。2016/2017年度の累計生産量は、4月時点で昨年度より0.9%増加している。一方で、SMP、バターの製造量は減少している。

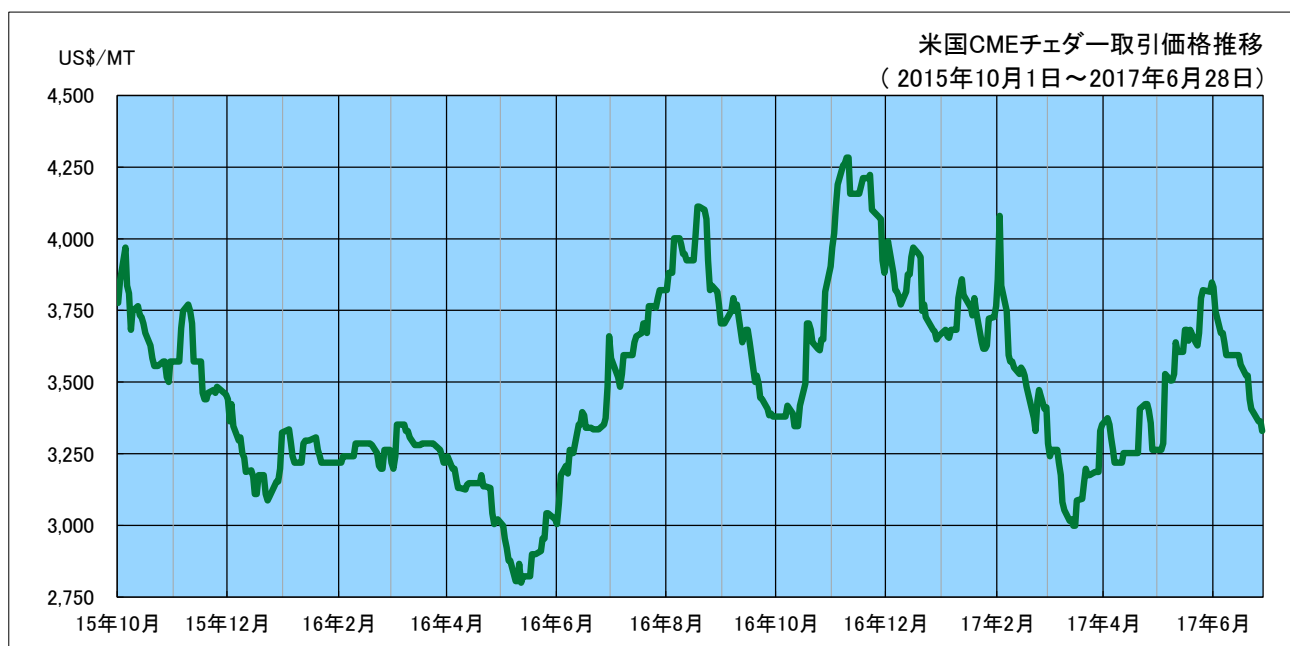
アルゼンチンの生乳生産

2017年の生乳生産量は1,040万トン、前年の約990万トンから2%増となる見込みである。年初に起きた天候不順の影響と、製造コストの上昇で、増加幅は2%にとどまる見通しである。

4月の平均乳価は34米ドルセント/Q程度のもので、3月比2%増、前年4月比59%増となっており、高い乳価から生産者意欲が高まり、生乳生産量が回復していると思われる。一方で、主要生産地であるサンタフェでは、昨年の洪水により疲弊し廃業する酪農家が増えている。2016年～2017年の間に500～600戸が廃業したと伝えられている。

2017年の乳製品輸出量は23%減の18万6,000トンであった。ブラジルはアルゼンチンの主要輸出先(2016年の同国乳製品輸出量の35%がブラジル向け)であるが、その他はロシア(13%)、アルジェリア(11%)、中国(9%)であった。品目別ではWMP(35%)、ソフトチーズ(13%)、SMP(9%)、ホエイ(8%)がドル建てで輸出された。

米国CME(シカゴ)相場



2017年6月のCMEスポット相場は6月1日にUSD3,831/MTから開始となった。その後価格は軟調に推移し6月28日時点ではUSD3,330/MTとなっている。

<斉藤>

国内情報

生乳減産続く -追加輸入入札も脱粉逼迫感は解消せず-

生乳生産

農林水産省が発表した5月の全国生乳生産量は64万5,243トンで前年同月比1.2%減となった。地域別では北海道が33万9,327トンで前年同月比1.3%減、都府県は30万5,916トンで前年同月比1.2%減となっている。Jミルクが5月末に発表した需給見通しによると、この夏(7~9月)の全国生乳生産量は前年比2.1%減。特に都府県は3.9%減と大幅に落ち込む見通しである。一方で牛乳類の需要量が0.1%増と堅調に推移する見込みとしており、都府県の減産を補完する道外移出生乳は20%強の大幅な拡大が必要だとしている。一方で、ホクレンが6月19日に発表した5月の用途別販売乳量によると、生乳道外移出は2万9,380トンで前年同月比8.3%増となったが、Jミルク見通し(3万1,000トン)ほどは伸びなかった。6月も当初の見通しを下回り、3~4%増程度にとどまる見込みである。都府県の減産で依然として北海道産生乳への引合いは強いものの、「飲用牛乳の消費が落ち着き始めている」との見方もあるため、予断を許さない状況である。

バター

農林水産省が発表した5月のバター生産量は6,190トンで前年同月比3.8%減、在庫量は2万7,032トンで前年同月比9.5%増となった。農畜産業振興機構は6月23日、2,000トンの売買同時入札(SBS方式)を実施、応札数量は485.8トン(競争倍率0.24倍)、落札数量は462.3トン(落札率23%)、売渡落札平均価格は¥1,045,422/トンとなった。前回(5月25日)、前々回(4月20日)実施の入札に引き続き、競争倍率は0.3倍を下回っており、輸入バターに対しての需要の低さが伺える。2017年度の生産量は軒並み前年を下回って推移する見込みであるものの、1万8,000トン

の輸入バターが順次売り渡されているところであり、現在のところ 2017 年度末在庫量の見通しは、前年比 19.3%増となっている。

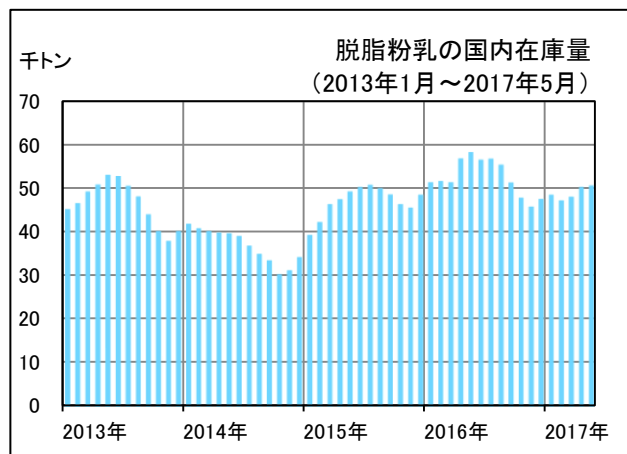
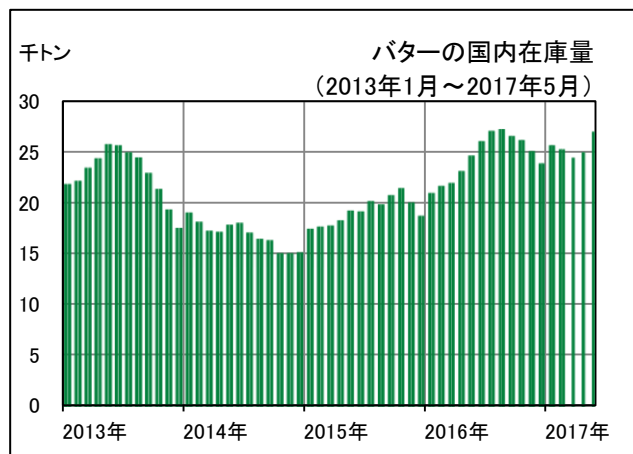
脱脂粉乳

農林水産省が発表した5月の脱脂粉乳生産量は1万1,555トンで前年同月比0.6%増、在庫量は5万781トンで前年同月比13%減となった。農畜産業振興機構は、6月8日に一般入札2,000トン、13日、27日にそれぞれ5,000トン(SBS方式)を行なった。6月8日の一般入札(特A規格、A規格それぞれ1,000トン)では、特A規格は4者が応札し全量落札、A規格も4者の応札で全量落札となった。6月13日のSBS入札では、応札数量は1万4,608トン(競争倍率2.92倍)で全量落札された。売渡入札は15社が応札し、このうち12社が落札した。落札平均価格は、¥585,170/トンだった。6月27日のSBS入札では、応札数量は1万6,631.3トン(競争倍率3.33倍)で全量落札された。売渡入札は16社が応札し、このうち10社が落札。落札平均価格は、¥613,153/トンとなった。

| | | 倍率 | 応札数量 | 落札数量 | 応札者数 | 落札者数 |
|-------|---------|------|------------|----------|------|------|
| 6月8日 | 一般 特A規格 | 2.89 | 2,894.0トン | 1,000トン | 4 | 1 |
| | 一般 A規格 | 3.30 | 3,300.0トン | 1,000トン | 4 | 1 |
| 6月13日 | SBS | 2.92 | 14,608.0トン | 5,000トン | 15 | 12 |
| 6月27日 | SBS | 3.33 | 16,631.3トン | 5,000トン | 16 | 10 |
| 6月合計 | | | | 12,000トン | | |

*一般: 輸入応札者/落札者数 SBS: 売渡応札者/落札者数

過去2回はいずれも競争倍率約3倍となっており、需要の高さが際立っている。さらに7月に5,000トン、その後4,000トンの入札が随時行われる予定となっているが、引き続き堅調な需要が見込まれる。天候とともに動向注視していく必要がある。



生乳生産量

(単位:千トン)

| | 生乳生産量 | 用途別内訳 | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 牛乳等向け | 内業務用 | 乳製品向け | その他 |
| | | | | | |
| 前年同月比 | 98.8% | 99.0% | 95.7% | 98.4% | 97.7% |

2017年度、バター需給予想

(単位:トン)

| | 生産量 | 前年比 | 消費量 | 前年比 | 在庫量 | 前年比 | 月数 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 第1四半期 | 16,808 | 91.7% | 16,089 | 102.2% | 26,900 | 102.9% | 4.6 |
| 第2四半期 | 12,900 | 89.7% | 17,600 | 126.4% | 24,700 | 92.9% | 4.2 |
| 第3四半期 | 12,500 | 90.1% | 22,800 | 92.7% | 23,000 | 96.3% | 3.9 |
| 第4四半期 | 17,600 | 103.6% | 16,600 | 101.2% | 29,200 | 119.3% | 5.0 |
| 合計 | 59,808 | 94.1% | 73,089 | 103.4% | 29,200 | 119.3% | 5.0 |

*在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2017年度、脱脂粉乳需給予想

(単位:トン)

| | 生産量 | 前年比 | 消費量 | 前年比 | 在庫量 | 前年比 | 月数 |
|-------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|-----|
| 第1四半期 | 32,192 | 95.9% | 36,191 | 108.7% | 53,700 | 94.6% | 4.3 |
| 第2四半期 | 24,300 | 89.3% | 36,200 | 98.1% | 48,300 | 94.0% | 3.9 |
| 第3四半期 | 26,800 | 89.9% | 36,500 | 102.7% | 46,600 | 97.8% | 3.8 |
| 第4四半期 | 34,100 | 103.7% | 40,000 | 113.2% | 50,700 | 105.2% | 4.3 |
| 合計 | 117,392 | 95.1% | 148,891 | 105.5% | 50,700 | 105.2% | 4.3 |

*在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<白井>

■ 今月のトピックス

■ 今年のEUの春はかなり短い?

EU各国の3~4月は例年よりもかなり寒く、5月に入っても積雪がみられるエリアもあり、春の到来は従来よりも遅く、ミルクフラッシュも従来よりも遅くなることが予想されていた。

1~3月の生乳生産が前年割れだった理由の一つが春の到来の遅れであったため、気候が暖くなるにつれて生乳生産が拡張することを関係者は期待していたと思うが、実際5月後半に入るといきなり気温が上昇し真夏並み、もしくは真夏以上の気温を記録する日が連続している。

フランスの一部のエリアでは36~38℃を記録しており、オランダの南部では牧草用の灌漑用水の取水制限がおきている等の話が聞こえている。この傾向が続くようであれば、生乳生産の回復に大きな影響が出ると思われる、さらにはバター不足で苦しむEU域内でアイスクリーム等の更なる乳脂肪に対する需要が増えることが懸念される。

<黒川>

■ メルボルン駐在員情報

■ 新シーズンの乳価発表 注目のMGC社早々に乳価改定

7月から始まる豪州新シーズンの乳価が順次発表された。まず先月報告した通り5月10日に Fonterra 社が新シーズンの最終乳価予想を AUD5.30~5.70/乳固形 kg とした上で、該当の酪農家にはインセンティブ(割増金)として AUD0.40/乳固形kgを支払うことを発表している。Fonterra社は集乳量を増加させる必要があり、非常に強気な乳価格提示を誰よりも早く行って酪農家への積極的なアピールを行った。

6月7日には注目されていた MGC 社がオープニング乳価を AUD4.70/乳固形 kg と発表した。今シーズンの最終乳価 AUD4.95/乳固形 kg を支払うために AUD8千万(約65億円)を借り入れて何とかこの乳価を維持しているため、

同社の新シーズンのオープニング価格が AUD4.70/乳固形 kg と低いのも理解できなくもないが、現在の酪農家の状況と、他社から出てくると予想される乳価を考えると低すぎと言えインパクトが大きすぎた。傘下の酪農家はこの一年間乳価が安すぎてコスト割れ経営を強いられてきており、非常に苦しいシーズンを過ごしてきた。また乳製品の国際相場が回復してきたこともあり、酪農家は新年度の乳価が上がる事を期待している。乳シーズン初めは設備の更新や冬場の飼料など年間を通して最もお金がかかる時期であり、酪農家は今すぐにもキャッシュが必要な為、酪農家を強く引き付けるのには最終乳価よりもオープニング乳価の魅力度が重要なのだが、MGC 社乳価はそれが乏しかった。その後 6 月 14 日までに、その他主要乳業会社の Bega/Tatura 社、WCB 社、Burra 社、最終的に Fonterra 社が乳価を発表した。各乳価は下記の通り。

| 主要乳業会社 オープニング乳価 (2017/2018 年度) | 初回 (6/14 現在) | | 最新 (6/22 現在) | |
|--------------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | 乳固形 kg 当たり | ℓ換算 (豪セント) | 乳固形 kg 当たり | ℓ換算 (豪セント) |
| Murray Goulburn (MGC) | AUD 4.70 | 35.2 | AUD5.20 | 39.0 |
| Fonterra | AUD 5.30-5.70 | 39.7-42.7 | AUD 5.30-5.70 | 39.7-42.7 |
| Warrnambool Cheese & Butter | AUD 5.50 | 41.2 | AUD 5.50 | 41.2 |
| Bega/Tatura | AUD 5.50 | 41.2 | AUD 5.50 | 41.2 |
| Burra Foods | AUD 5.45-5.65 | 40.8-42.3 | AUD 5.45-5.65 | 40.8-42.3 |

MGC 社が大きく出遅れる形となったが、上述の通り、酪農家は今すぐにもキャッシュが必要な苦しい状況であるためオープニング乳価が高い乳業会社に流れる可能性が一気に高まる。Fonterra 社は各社が乳価を提示した後に、最終的に最も高い価格を酪農家に提示した。MGC 社と Fonterra の乳価を比べた場合、豪州酪農家一軒あたりの平均乳量が大まかに年間 2 百万リットルとすると、各月約 17 万リットルの生乳販売にて生計を立てている酪農家にとっては、一か月の収入が約 AUD60,000 (約 500 万円) なのか約 AUD72,500 (約 610 万円) の違いとなり、酪農家にとって生乳販売先としての乳業会社の選択は非常に重要になってくる。

6 月 22 日、MGC 社はオープニング乳価を AUD5.20/乳固形 kg に改定することを発表した。MGC 社の当初の思惑ではオープニング乳価は低く設定し、従来通り 3 か月毎にステップアップを行い、最終的には Fonterra 社の最終価格に近付けるという戦略であったのかもしれない。しかしながら、MGC 社のオープニング乳価はあまりにも低く、Bega 社、WCB 社が早々に AUD5.50/乳固形 kg と同社よりかなり高い乳価を提示した事により、MGC 社としても少しでも酪農家を確保する為に乳価を上げざるを得ない状況となった。それでも乳価は AUD5.20/乳固形 kg と他社価格よりも低いままで、また Fonterra 社の積極的な乳価戦略と対照的な MGC 社の後手の対応が鮮明となった。こちらの地方新聞では、記録的な数の酪農家が乳業会社を変更すると報じられており、7 月 1 日から始まる新シーズンの数か月で数十万トンの生乳がその他乳業会社へ流れると報道されている。本来酪農家は保守的であり長年の信頼関係を作ってきた従来の乳業会社から他へ移る事は今まででは有り得なかったものの、MGC 社への信用は大きく損なわれており既に多くの酪農家がその他乳業会社へ移っている。今シーズンもその流れは止まらないのかもしれない。

<松本>

■ 米国駐在員情報

■ カナダ 新乳価クラス7設定と脱脂粉乳輸出量の増加

2016 年カナダの生乳生産量は過去最高を記録したものの国内市場ではバター不足の状況が続いている。需給を改善するためには、バターとクリームに関しては輸入に頼らざるを得ず、2016 年の輸入量は前年比でバターが 85% 増、クリームは 2 倍(100%増)となった。2017 年 1~4 月累計の輸入量は前年同期比でバターが 8%増、クリームは 3

倍(200%増)となっている。

また国産バター供給量を増やす目的で5州の酪農生産者に対し生乳生産割当の増加が認められた。2017年7月1日よりプリンスエドワード島、ニューブランズウィック、ノヴァスコシア、ケベック、オンタリオの5州においては、通常の漸増割当(2016年8~12月においては7%増であった)に加え、別途5%の生乳生産割当増が認められる。

一方で、カナダは生乳とバターの生産量の増加により脱脂粉乳の余剰在庫を抱えることとなり、国内における無脂乳固形の余剰を解消する目的で新たにクラス7乳価を設定した。クラス7は乳価の算出基準となる無脂乳固形を世界の脱脂粉乳相場における最低水準の価格とすることで、これまでカナダ国内におけるチーズ製造の為に主に米国から輸入されていた液状MPCやUF膜処理牛乳を実質的に締め出すこととなり、カナダへの製品輸出ができなくなった米国の中西部、北東部の乳業メーカーは現在余乳処理の問題を抱えている。

こうした事情を背景にカナダ産脱脂粉乳の国際市場への輸出も増えていることから、今後は米国をはじめアルゼンチン、EU、オーストラリア、ニュージーランド、メキシコといった国からカナダ政府に対し、同国の方針転換を求める圧力がより一層強まることが予想される。

5月の主要23州生乳生産量

米国農務省の発表によると5月の主要23州の生乳生産量は808万1,200トンで前年同月比1.8%増となった。先月発表の4月の生乳生産量は前年同月比2.2%増の780万8,800トンへ上方修正された。

主要23州における5月の一頭当たりの平均搾乳量は約924キロで前年同月を約7.3キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来5月単月の数字としては過去最高となった。

主要23州における5月の平均乳牛頭数は872万頭と発表され、前年同月比8万1,000頭、前月比では2,000頭の増加となった。

5月の全米生乳生産量

2017年5月の全米生乳生産量は858万600トンで前年同期比1.8%増となった。全米の一頭当たりの平均搾乳量は約915キロで前年同月を約8.6キロ上回った。5月の平均乳牛頭数は939万頭と発表され、前年同月比71千頭、前月比では2千頭の増加となった。

2017年5月主要州別生乳生産量(前年同月比)

| | | | |
|----------|-------------|--------|-------------|
| カリフォルニア州 | 1,595,810トン | -1.1% | (-17,706トン) |
| ウィスコンシン州 | 1,190,388トン | -0.7% | (-8,626トン) |
| ニューヨーク州 | 600,642トン | +2.3% | (+13,620トン) |
| アイダホ州 | 569,770トン | -0.2% | (-1,362トン) |
| テキサス州 | 483,056トン | +14.7% | (+61,744トン) |
| ミシガン州 | 450,822トン | +4.0% | (+17,252トン) |
| ペンシルバニア州 | 443,558トン | +2.1% | (+9,080トン) |
| ミネソタ州 | 394,072トン | +2.6% | (+9,988トン) |
| ニューメキシコ州 | 330,058トン | +6.9% | (+21,338トン) |
| ワシントン州 | 256,056トン | -1.4% | (-3,632トン) |

4月の米国産乳製品の輸出量

4月の米国産SMPの輸出は前年同月比20.2%増の5万5,615トンとなり、約2年振りの高水準となった。

輸出量全体の43%をメキシコ向けが占めている。価格が若干弱含んだこともあり前年同月比14%増となった。

バター及び乳脂肪の輸出は1,516トンで前年同月比23%増となった。この数字は、今年に入ってから最も高い水準となっているが、2016年以前の水準と比べるとかなり少ない量に留まっている。米国は依然としてバターの輸入国であり、4月の輸入量は2,565トンで前年同月比71%増となり単月の輸入量としては2004年以来最高となった。米国産バターの最大輸出先はカナダである事には変わらないが、4月のクリーム of 輸出量に関してはメキシコ向けがカナダ向けを上回った。バター価格の世界的高騰の結果、米国産バターに割安感も出てきており、今後は輸入量が減り、輸出量が増えることも考えられる。

4月の米国産チーズの輸出は26,922トンで前年同月比27%増となったものの、前月比では10.8%減となった。昨年の10月以降、毎月のチーズ輸出数量は前年同月を上回り続けているが、2014年、2015年の水準と比べるとかなり低い数字となっている。

4月のホエイ派生商品全体の輸出は前年同月比10.7%増となったが、これはホエイパウダーが前年同月比33.5%増と大きく伸びたことによる。一方でWPCの輸出量は減少している。

4月の米国産バター、脱脂粉乳、チーズの生産量

米国産バターの生産量は前年同月を下回る傾向が続いており、4月の生産量も7万4,501トンで前年同月比4.1%(3,223トン)減となった。カリフォルニアのバター生産は1,634トン前年同月を下回っている。同州では多くの生乳が粉乳製造に向けられる一方で、クリームはバター以外の製造に向けられている。

4月のノンファットドライミルク(NDM)の生産量は7万7,634トンで昨年並みに留まった。一方、SMPは2万2,791トンで前年同月比16%増となった。4月の輸出が好調であった事からも、米国産SMPに対する引き合いが強まっており、この事が米国内におけるSMPの生産量の増加を牽引しているといえる。

4月の米国産チーズの生産量は主要生産地である中西部の乳量が引き続き伸びている事から増えており、4月のチェダーチーズ生産量は14万2,556トンとなり、単月としてはUSDAが統計データを取り始めて以来過去最高となった。4月のチーズ全体の生産量は47万2,160トンで、前年同月比3.7%増となった。モザレラの生産量は15万7,992トンで前年同月比2.3%増となっている。

5月のチーズとバターの在庫量

5月末時点での米国内におけるナチュラルチーズの在庫量は前月比0.6%(3,450トン)増、前年同月比7.3%(3,450トン)増の60万8,360トンとなり、米国農務省が統計を取り始めた1917年以降の最高水準となった。なかでもアメリカンタイプチーズの在庫量の増加が顕著であり、5月末時点で前月比1.6%増、前年同月比11.8%(40,633トン)増の38万4,538トンとなった。アメリカンタイプ以外のチーズの在庫量に関しては、前月比1.2%減の223,958トンとなったが、前年同月比を0.3%上回っている。

バターの在庫量は前月比7.3%増の14万2,374トンとなったが、前年同月比では3.5%(5,176トン)減となっている。

<佐藤>

■ 主要生産国の現行乳価

| | 円換算乳価 ^{※1} | 直近の乳価 | |
|--------|---------------------|--|-------------|
| 日本 | ¥95.08/㍓ | ¥92.22/kg ^{※2} | (2017年4月) |
| ドイツ | ¥44.20/㍓ | EUR33.49/100kg | (2017年4月) |
| アイルランド | ¥41.78/㍓ | EUR31.66/100kg | (2017年3月) |
| オランダ | ¥47.51/㍓ | EUR36.00/100kg | (2017年3月) |
| 米国 | ¥42.00/㍓ | USD16.50/100ポンド [※] (100ポンド=45.3592g) | (2017年4月) |
| 豪州 | ¥32.92/㍓ | AUD4.95/kg MS(乳固形あたり) | (2016/17年度) |
| NZ | ¥41.21/㍓ | NZD6.50/kg MS(乳固形あたり) | (2017/18年度) |

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。
為替レート: EUR=¥128.00 / USD=¥112.00 / AUD=86.00 / NZD=82.00

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

<出典>

日本 : 農畜産業振興機構

EU : European Commission

米国 : CLAL

豪州 : Murray Goulburn HP

NZ : Fonterra HP

お問い合わせ先:
株式会社ラクト・ジャパン
webmaster@lacto-japan.com

出典:

- AGRA EUROPE 各誌
- Dairy Dairy Report
- Dairy Industry Newsletter
- 農畜産業振興機構“畜産の情報”
- AMS Dairy Market News
- 日刊酪農乳業速報
- Rice Dairy
- NZ Herald
- Stuff.co.nz
- 食品産業網
- Weeklytimes
- USDEC Export Trade Data
- Global Trade Information Service
- USDA's Dairy Market News
- Australian Financial Review
- 食品産業サイト
- 経済日報
- 東方ネット
- 長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。